

令和4年度第1回恵那市行財政改革審議会 会議録

日時：令和4年9月6日（火） 午前10時から

場所：恵那市役所 災害対策室 A・B

-
1. 開会
 2. 会長あいさつ
 3. 副市長あいさつ
 4. 議 事
 - (1) 令和3年度行財政改革行動計画の達成状況について 資料 NO. 1
 - (2) 令和3年度指定管理施設に係るモニタリング結果について 資料 NO. 2
 - (3) 恵那市財政計画の年度改定について 資料 NO. 3-1～3-3
 - (4) 令和5年使用料の見直しについて 資料 NO. 4
 5. 報告事項
 - (1) 恵那市公共施設個別施設計画の改訂について 資料 NO. 5
 - (2) エコセンター恵那の運営について 資料 NO. 6
 6. その他
 - (1) SDG s 未来都市計画について
 7. 閉会
-

出席委員

寺澤朝子委員、和仁 誠委員、高木良直委員、伊藤孝行委員、
柘植麻美委員、鎌田基予子委員

欠席委員

矢頭禎朗委員

1. 開会

■事務局（進行） 定刻なのでこれより審議会を開催する。私は本日の司会の企画課長の和田です。よろしくお願いします。

次第の裏面にある名簿の4番矢頭委員は所用のため欠席。本日の審議会は委員7名のうち6名出席で、恵那市行財政改革審議会条例第5条の規定により会議が成立している。また、本会議は原則公開とする。議事録も公表する。会議は11時50分を終了予定とする。

2. 会長あいさつ

■会長 おはようございます。10カ月ぶりに皆さんに会え嬉しく感じる。前回、次回はマスクを外せると思ったが、相変わらずウィズコロナだ。コロナ禍で、危機意識は人によって違うと感じた。例えばオミクロン株が急速に増えたとき、名古屋の繁華街では、居酒屋でマスクを外して飲み会をしている人が多くいるのを見た。案の定感染者が増えた。中部大学はほとんど対面授業をしている。学校内のクラスターは、マスクをつけていない部活動や、演習後に一緒にごはんを食べるときに起きている。私も毎日200名ぐらいの学生に講義をしている。講義室で距離を保ってマスクをしていると感染しない。クラスターは発生してない。普通に感染対策をしていけばうつらない。マスクをして感染に気を付ければいいが、危機意識が人によって違う。これは短期的なこと。

長期的には、日本人の人口減が深刻な課題として目の前に迫っている。一昨日の新聞。上半期の子供の出生が40万人を切った。昨年新生児は81万人。今年、上半期で40万人を切っている。大学では18歳人口の減が大きな問題。今122、3万人いるが18年後には81万人になる。3分の1いなくなるのに大学のこの数が維持できるのか。高校、中学校も深刻だ。今やっておくべきことがなかなか分かってもらえない。今の30、40代の若手には深刻な問題だ。ジェネレーションギャップがある。健全な危機感をどう持っていくかがどの組織でも重要だ。

ただ、不安ばかりあおるのもよくない。組織のトップが健全な危機感をもち、でも強みを磨いていこうということを併せて伝えていくことが大事だ。大学も社会で必要とされていくためにこういう努力が大事だということを伝えていくことが必要だ。

短期、長期の危機感がある。委員の皆様には忌憚のない意見をいただきたい。

3. 副市長あいさつ

■副市長 コロナについて恵那市の状況。8月に入りたくさん感染者が出た。8月2日118名、9日101名。この3週間は、8月15日の週は1週間で440名、22日の週371名、先週は223名。減少している。しかし、学校が始まり、一部の学級は閉鎖している。爆発的に増えてはいない。今後も感染防止対策をしてワクチン接種をしっかりとしていきたい。

今日はエコセンター恵那の運営についての報告をする。現在、久須見にエコセンター恵那がありごみの焼却をしている。10年延長してもらったがそれ以後は認めないと言っている。中津川市と恵那市で広域にごみ処理をすることになった。9月1日から事務局をスタートして場所や方法を決めていく。その方向が全く決まっていなかったため、恵那市ではエコセンター恵那の職員の補充を全くせずにここまで来たが、ごみ処理は市直営で運営することが望ましいということが、環境審議会で結論が出た。それで今日報告する。職員の定員適正化に影響する。

4. 議事

(1) 令和3年度行財政改革行動計画の達成状況について 資料NO. 1

■事務局（進行） 議事に入る。進行は会長にお願いします。

■会長 議題1について事務局から説明を御願います。

[事務局から資料に基づき説明]

■会長 何か質問等はあるか。

私から一点確認する。予定通り進行していないという21.公共施設等総合管理計画の推進、この実施年度令和3年度、目標が協議検討、実績も協議検討。これはできているところということか。

■事務局 協議はしているが、全体の計画としては見通しが立っていないので評価は「進行していない」としている。

■会長 串原だけ実績自体が未実施なのでということではなくて、全体として予定通りではないというイメージか。

- 事務局 山岡の野菜育苗施設は指定管理ということで一步進んだが、その他に関しては、働きかけをしているが見通せない。
- 会長 引き続き協議してほしい。

(2) 令和3年度指定管理施設に係るモニタリング結果について 資料NO. 2

[事務局から資料に基づき説明]

- 会長 質問はないか。

総合評価が全てB。何年か前はCやDがあった。努力によりこうなっているなら素晴らしいことだ。こども園も実施が素晴らしいが、子どもに気づかずにバスで亡くならせてしまったことなど、他市で起こったことが我が市で起こらないようにすることが大事だ。

(3) 恵那市財政計画の年度改定について 資料NO. 3-1～3-3

[事務局から資料に基づき説明]

- 会長 質問はあるか。

■柘植委員 確認したい。公債費と基金を比較して基金が上回るということは大きな流れでは分かったが、基金は使用する目的が決まっているので、ここと違うところの公債などの残高を単に比較するだけでは安心できない気がするが。

■事務局 基金は目的を持ったものだ。それぞれの基金で地方債の残高とは比較できないので、恵那市の財布の中で、基金と地方債で比較している。数字的に見ても地方債は東濃5市の中でも高いが、基金も十分積立てしているので、健全な運営ができていると考えている。

貯金と借金というイメージをしてほしい。恵那市としては貯金が充実している。借金もあるが、今後無理のない運営をしている。

- 会長 基金間の流用はあり得るのか。

■事務局 基金はそれぞれ目的があり、公共施設の整備基金は老朽化施設の改修などに充てるといった目的を持っている。まちづくり基金は市のまちづくりに使う。基金間の流用はできない。

- 会長 非常事態でも絶対はないと。

■事務局 はい。

■柘植委員 家計の貯金ならやりくりできるがそんなに使えないというがあるので、厳しいと感じた。

■会長 3ページの歳入。自主財源はほとんど減らないということで。ふるさと納税は寄附金なので自主財源に入るといふことか。

■事務局 寄附金は自主財源で計上している。

■会長 そうすると、No. 3-1の財政計画の7ページの(6)財産収入・寄附金・諸収入。令和3年度12億円がふるさと納税で入っている。これは横ばいで見込んでいるとある。見込みは横ばいでもいいが、これは増やす努力をしてもいいと思う。

■事務局 寄附金は一般財源に入っている。ちなみに3年度でふるさと恵那応援寄付金は1億6千万円。2年度が9300万円。

■会長 12億円の中の1億5千万円がふるさと恵那の納税ということで。魅力を強化していただきたい。

他市との比較。各市の状況を把握するためにもこういう比較は大事だ。基金・地方債。指標が上に行くほど良い。これを見ると、多治見市は優秀だ。下がり方は恵那市がダントツですばらしいが。市としてどう分析しているか。

■事務局 多治見市との比較は、人口等の条件が違っているのでできない。財政規模も多治見が非常に大きい。ただ、多治見市のいろいろな指標を見ると安定した運営をしている。常に他市の状況も確認して参考にしてている。

■会長 恵那市も他市と比べてすばらしいパフォーマンスだ。強みだと認識するといふ。

(4) 令和5年使用料の見直しについて

資料 NO. 4

[事務局から資料に基づき説明]

■会長 令和5年度は料金の見直しをしないということをここで審議する。令和2年度の見直し的时候は、柘植委員がグラウンドの実情を紹介された。前回は少し上げた。その後コロナ禍になったので、料金が上がって利用人数がどうなったかは全く分からない。ただ、令和3年度を見ると少しずつ活動が復活している。令和5年ぐらいには料金の影響も分かってくると思う。令和8年度にもう一度見直しをすればよいかと私は思う。

■柘植委員 それでいいと思う。

■会長 ほかに。ここまで全体で、委員から順に発言をお願いします。

■和仁委員 昨年度からの委員として参加しているが、昨年度は都合により欠席した。よろしくお願いします。

資料1の21、公共施設等総合管理計画の推進。協議検討となっているが、地元の現在管理しているところが移譲の希望がないというのが2、3カ所ある。こういうところはこれ以上協議検討を進めても仕方がない。建物の改修等に費用がかかるので、早期に解消した方がいい。切り捨てるといって語弊があるが、いつまでも負担を持っていくのはいかなものか。閉鎖、廃止に向けて地元との協議をもっと進めた方がよい。

■農林部次長 同じことを何度も地域に話を持っていっても負担がある。ただし、地域の中の建物なので地域にも必要性がある。意見として頂き、違った切り口で引き続き協議したい。

■高木委員 昨年から参加している。商工会議所から来ている。

事前に資料を頂いたが全ては読みきれなかった。行政の会計の在り方など勉強したい。いい機会だと思っている。

企業を運営しているの意見を述べる。うちでも時間外勤務手当の縮減は働き方改革で取り組んでいる。我が社の成功事例。8時開始、休憩1時間、17時終了。全ての業務を見直すと、朝8時に来る必要のない業務が比較的多くある。時差出勤を最近している。遅出が10時で7時までが定時とか。変更した結果、残業時間が削減できた。業務内容も支障がなかった。そういうことも検討していただきたい。

施設の使用料の見直し。作ってある施設は年間の維持費のコストがある。収入が全体で5100万円ぐらい令和3年度にあったが、それで維持費がまかなえているか。修繕、電気代、人件費がかかる。作ったものに対する収益管理の目標を設定しないといけない。人が入って、使用料収入がこれだけだと損益があまり見えない。そこを厳しく1施設ずつ見ていった方がいい。利用者数が減っているところは手を打つとか。

■事務局 後の方の意見については、新たな手法を作りながら行革の中で検証していきたい。時間外勤務手当の削減は目標達成できなかった。コロナ前は働き方改革という言葉が騒がれており、組織の中でもリモートワークの推進、時差出勤を進めていたが、コロナのまん延でそれが一気に崩れた。コロナ対応職員のセクションを専任で設けてそこに派遣し土日なく働いていただく。そうすると、そこに派遣された元の課は職員が足りなくなり、それを残された職員でやらなければいけなくなった。新たな行政需要が災害以上のもので起こったのでこのような結果になった。リモートワークもコロナのおかげで恵那市も特に

推進した。職員のメンタルや肉体的なエラーが起こらないように、時間外手当を念頭に置きながら今後も行財政改革の視点を持って進めていきたい。

■鎌田委員 私も委員になって2年目だ。

和仁委員が言われたこともそうだなと思う。行政は人が代わるので、新しい担当者とまた新たに協議ということもある。そういうときは損益のところでしたり数字で訴えかけることが必要となると思う。人と人との協議となると難しいところがある。

評価。施設のモニタリング。評価すること自体が難しいことだ。基準があるが、何人で何日かけて評価しているのか。評価後、要改善となったとき、どのタイミングで指導に入るのか。

資料3-3、東濃5市の比較。中津川市と比べてしまう。公式ではないが、市民感情としてはいずれ中津川市と一緒にするのはというのがある。冒頭にごみ処理場が共同になる話があった。これからそういうことが必要になってくると思う。強み、弱みがあり、まずは中津川市と情報共有などの付き合いが必要。グラフも同じものを使っているのか。中津川市ではどういう表現をしているのか。同じデータを活用していくと数字も見やすい。

■事務局 指定管理者の評価の方法。資料2、5ページ6ページの評価シート。100施設を管理しており、それぞれ所管がある。所管課で評価をしている。それぞれの所管でそれぞれの施設評価を年度当初にする。あと、副市長をトップとする行財政改革推進本部会議で、今副市長の後ろにいる部長たちで目通しをする。そこで評価が適正かどうか確認する。その後、この行財政改革審議会で最終的に審議していただく。

■鎌田委員 現地の実地調査は何日ぐらいかかるか。

■事務局 今の話は総括的な話で、それぞれの、こども園なら幼児教育課が管理しているので、現場で聞き取りするかどうかは施設ごとに違う。一括して答えるのは難しい。

■事務局 中津川市との比較。もう少し詳細なデータがある。資料3-1の22ページ、各市を比較するときよく使う指標がある。恵那市は赤、中津川市が青で表している。これがどの市も使っている指標だ。

■副市長 広域については、ごみ処理だけは進んだ。ただ、このほかに、東濃地区全体でやっているのが、消防の指令台。火事があると一番初めは瑞浪市に入り、そこから各分署へ入り出動することになった。それは、全体を管理する指令台の機器がすごく高いため。火事的位置を確認するなどのことをする。かつ、現在は、市単位で補助金が出ないことが国で決まった。岐阜県でも東濃が

一番早くスタートした。瑞浪市が東濃で一番最初に指令台の更新時期が来ていたためもある。それで瑞浪市が東濃一円でやりたいとアプローチした。その後、岐阜県が、県全体でやる案を出したが、小さいところは各自で実施した方が効率がよいなど、話がまとまらず、東濃地区だけは一緒になった。

このように先にお金のお話が出てきて広域が進むということがある。

ごみ処理も、単独だと補助金が出ない仕組みになったので、恵那中津で実施する、そういう方向になっていく。

使用料については、前回使用料を決めていただいたが、難渋した。いろいろな人がいろいろな施設を使っており、負担に対して「それだけではできない」という話があり、途中で譲歩したものもある。野球の照明などは多大な額がかかる。額が上がると人数が少なくて負担に耐えられないということもあり、思い描いた数字でいかなかったこともあった。市民の負担ということがある。一方で使う人だけが税金を使っているということがある。バランスを考えていきたい。

■会長 中津川市との連携は進めていく必要があると思う。公共施設をどうするか協議をしているうちに担当者が代わるということがあり、時間のロスを考えるとパッと決めることも必要だというのは、私も思う。慎重に考えて、早く決断するもの、長く時間をかけるものという形で対応してほしい。

■伊藤委員 昨年から委員になっている。計画進捗も、27のうち半分が予定通りで、残りは概ね6項目で、審議会について、A、Bは予定通り進めればいいが、C、Dは特に重点的に遅れをキャッチアップしてほしい。モニタリングも評価方法も理解できた。全般的によく管理されている。

金融機関から来ているので財政のところでは話したい。歳入・歳出が、令和7年に向けて、歳入の減は多いが歳出もかなり減るので、差がだんだん縮まってくると思う。見通しは厳しい点はあるが、支出に伴う手当ても今後必要になるし、それも検討されていると思う。現時点でどのようなことを考えているか。

企業でいう財務内容について。債務に対する貯金ということで、基金残高が今は上回っている。歳入に対する借金の割合も、売上、歳入の中に収まっているので、財務的にはいい状態だと思う。一方で、A4の縦の資料を見ると、東濃5市と比べると1人当たりの地方債残高が多い。ただ、臨時債を除けばそこまでではない。

使用料については、近隣比較のところには単位や基準が書かれていなかったのだが、ベースは一緒にしていくと思うが、その辺りが、平均値に合わせるのが

適正かどうかは施設のクオリティーなどいろいろな面に関係するが、施設の申請の利便性を高めたり、ほかの町村ではほとんどネットで利用申請できると聞いているので、そういうところとの連携も見直しのポイントになると思う。

時間外勤務については、予期しないコロナもあったし、現状では、10日間出て来られないとなるとほかの人にしわ寄せがいくので、やむを得ない部分もある。それも含めた適正な人員とワークライフバランス、ワークライフハーモニーも重視しながら管理してほしい。

■事務局 歳入と歳出のバランスは、資料3-1の5ページ、自主財源である市税は今後、今と変わらない収入でいくと予想している。収入に占める市税は20%ぐらいで、国からの地方交付税が30%、それが今後の社会情勢等によって横ばいで推移すると推計している。自主財源の市税を何とか確保して行って財政を運営していきたいと考えている。

■事務局 使用料については、今年度オンラインの予約に取り組む。より一層利用しやすい管理をしていく。

■会長 表には単位を書いた方がいい。

議事はこれで終了する。

5. 報告事項

(1) 恵那市公共施設個別施設計画の改訂について

資料 NO. 5

[事務局から資料に基づき説明]

(2) エコセンター恵那の運営について

資料 NO. 6

[事務局から資料に基づき説明]

6. その他

(1) SDGs 未来都市計画について

[事務局から資料に基づき説明]

■事務局（進行） 何か質問はあるか。

この取組は恵那市の組織でも今年度SDGs推進室を設けた。市民の皆さんに浸透するように働き掛けていきたい。

7. 閉会

■ 柘植副会長 SDGsは、滋賀県にいる妹から先日、テレビで見たと連絡があった。根の上のグランピングも見たと言っていた。日本全国、海外の人まで恵那市のことを耳にすることがこれからもあると思う。ラリージャパンの発信もしていると思う。未来キャンパスというのも始めている。そういう魅力のあるまちの土台を今作られている。それを進めてほしい。あとは、足元、物価高や原料高、人材難、アフターコロナ、そういうところを支え、地盤固めをしてほしい。我々も市民として支えていきたい。これで閉会する。

[閉 会]